

フルート アドバイザー



大越 絵梨花

真岡市出身。9歳よりフルートを始める。宇都宮短期大学附属高等学校音楽科卒業。

第2回横浜国際音楽コンクール管楽器部門第1位、留学奨学金を受賞し渡仏。

パリ・エコールノルマル音楽院最高課程コンサーティスト・ディプロムを審査員満場一致首席卒業。

フランス国家演奏家資格取得。

パリ地方音楽院フルート科卒業。

栃木県産業協議会より栃木県イメージアップ貢献賞芸術部門受賞。

フランス・クレドオーコンクール、フランス・ペランコンクール第2位。2018年つくばフルートコンクール入選など国内多数のコンクールで入賞。

これまでに崎谷直、工藤重典、工藤雅子、Michel Rousseauの各氏に師事。

現在、フリーランス奏者として後進の指導に力を入れると共にソロ活動やオーケストラ、室内楽など幅広く活動している。宇都宮短期大学音楽科・同附属高等学校音楽科講師。

演奏を楽しむために

ホールでの演奏はいつも練習している環境とは違うため、完璧だぞ！と自信をもって舞台へ立っても練習通りにいくとは限りません。最高な演奏をするために、様々な最悪な事態を想定し、備えることが大切です。

1. 本番を想定し練習する

音出しが十分にできないまま演奏時間になってしまったり、コンクールの予選などはステージリハーサルがない場合もあります。それに備えて本番が近づいてきたら、音出しなしで一曲通しの練習をしてみましょう。間違えても止まらず、吹き直さず通すこと。うまく吹けなかったところは理由を考えてみましょう。



2. ミスに備える

どんなに練習をしても、本番でうまく吹けない時もあります。

細かい音符が転んでしまったり、音はずしてしまったり…。

自分の演奏を録音して聴いてみてください。ミスの癖や、聴こえていない音など…たくさん発見があります。

起こりうるミスを事前にチェックし、防ぐための深い練習をしましょう。

3. ブレス

本番は緊張して呼吸も浅くなってしまったり、息が十分に吸えなくなったりします。万が一、息が足りなくなった時の保険のブレスを楽譜に書き込み、練習しておきましょう。

4. 演奏中

ホールによって響きは違います。その場の響きに適応すること。

空間を感じ、広さ、温度、ライトの煌めきを身体で感じてください。

決して演奏することに必死にならず、客観的に空間に響く音を聴くこと。ブレスの時は緊張で固まった筋肉をリラックスさせるイメージを持ってみてください。

～さいごに～

もしミスをしてしまっても人生が終わったかのように落ち込む必要はありません(そう自分にも言い聞かせてます)。

きっと、たぶん、おそらく！思ったよりもひどくはない！そう思うことです。いちばん大切なのは、どうしてミスをしたのか？どんな練習をしたら防げるのか。ひとつひとつ考え、次に活かすことが大切です。

さあ！眩しいライト、空間に響きわたる音、あたたかい空気…
素敵なステージの時間を、みなさんがキラキラ輝き、楽しめますように！

Bon concert!!!

